

# 川上の集合体形成を 業態変化する 大きなチャンス

ヴァローレエ

## 櫻井 啓蔵社長



外国人研修生の問題はアパレル業界の構造の変化によるものだと思う。この10年、アパレルメーカーは、川中から小売りにシフトしたことで、ロスは少なくなってきた。

一方、工場が置いてきぼりの状態で、商社や企画会社の参入により店頭情報も入りにくくなっている。工場は（研修生が増えたという）人の変化はあるが、労働集約型産業のままになっている。

こうした状況を解決するには工場が製品、つまりトータルコストで川下に販売できる構造を作ることだと感じている。川中のポジションに商社やOEM（相手を先ブランドによる生産）企業が進出し、流通のインフラ（社会・経済基盤）はできたが、マインドが不足している。物を売る人の論理と、物を作る人の論理は大きく異なる。双方をつなげる企業または人の必要性がある。

工場をめざすところは、イタリアのように生地、加工、付属品など川上の集合体をつくり、発信できる価値を日本でつくっていくことだと思う。物を作れるところは国内外に多くあるが、思いを形どおりにできるところは少ない。それは日本独特の分業があり、川上の企業の動きが点になってしまっているからだ。当社も企画、パターン、サンプル縫製の内製化で思いを形にする機能があるが、今回の法改正後は川上をすべて含んだ構造の改革の必要性を感じている。

イタリアの工場のようにトータルコストの構造にして、川下と対等の関係になるのが望ましい。法改正は縫製業が業態変化する大きなチャンスと思う。